NEW CROWN　授業実践事例

BOOK 3　LESSON 6　授業例①

T.T. 先生

指導計画表
（全 15 時間）

時間	学習内容・主な活動
1	■とびら ・本課の導入 ・オーラルイントロダクション ■GET Part 1 ・現在分詞・過去分詞の後置修飾の導入 ・Practice
2	■GET Part 1 ・前時の復習 ・語句・表現の導入 ・本文のオーラルイントロダクション ・本文音読
3	■GET Part 2 ・前時の復習 ・接触節の導入 ・Practice
4	■GET Part 2 ・前時の復習 ・語句・表現の導入 ・本文のオーラルイントロダクション ・本文音読
5	■USE Read ・前時の復習 ・本文全体概要把握
6	■USE Read ・前時の復習 ・In-Reading 活動
7	■USE Read ・前時の復習 ・In-Reading 活動

時間	学習内容・主な活動
8	■USE Read ・前時の復習 ・Post-Reading 活動
9	■USE Read ・DVD の視聴
10	■USE Mini-project ・導入 ・モデル文の聞き取り，作成
11	■USE Mini-project ・英文作成（1）
12	■USE Mini-project ・英文作成（2）
13	■USE Mini-project ・発表会準備
14	■USE Mini-project ・発表会
15	■まとめ ・プレゼンテーションテスト

実践例

1.　言語材料の導入における留意点

本課で扱う新言語材料は，分詞の後置修飾と接触節の２つになります。この２つの言語材料は，両方とも新しい語句や表現が出てくるわけではなく，修飾関係が理解できれば導入としては十分であると考えます。また，後置修飾の概念については，前課で関係代名詞の学習の際に，理解をしているという前提でオーラルイントロダクションを進めていきます。その際には，コントラストがはっきりわかるようなリスニングタスクを組み入れながら，導入をします。また，どの導入に関しても共通して言えることがありますが，その表現を使う必然性を出すことが大切です。例えば，今回の分詞の後置修飾においては，似たような女の子が数人いて，いずれの少女にも微妙な違いがあり，その違いを聞き取らなければ，誰が誰だかわからない仕掛けを作り，聞き取らせることで，生徒たちは教師が伝えている内容を理解し，スムーズに導入をすることが可能となります。

接触節についても同様の考え方で導入を組み立てていきますが，ぜひとも注意したい点としては，接触節と「目的格の省略」をイコールで指導しないということです。指導書にも書いてあることですが，教師側が文法理念をきちんと理解しながら教材研究を進めたいです。教科書には「訪れたい国」や「読んだことのある本」「一番面白かった映画」などの話題に触れられています。このあたりのテーマを使いながら，生徒とのオーラルインタラクションを通して接触節の導入を進めていくことも可能だと思います。

また，分詞も接触節もいずれも後置修飾の形になります。まちがっても板書やプリントで左向きの矢印を書いたりせずに，直読直解の流れで説明を進めたいところです。

× The girl listening to music is Kumi.
「音楽を聴いている　→　少女」
○ The girl listening to music is Kumi.
「少女→（どんな少女かというと…）→音楽を聴いている」

これは１年生の段階から前から順番に理解していく，という指導を継続して行いたいです。Listening では，当然のごとく聞こえてきた単語から順番に意味を理解していきます。Reading でも同様のことが言えます。直読直解を一貫して指導し，早い段階から生徒たちに浸透させます。これは，関係代名詞や不定詞の形容詞用法・副詞用法であっても同様のことであると伝えていきたいです。

2.　USE Read の活用方法

今回の *NEW CROWN* の教科書において，USE Read を上手に扱うことが難しく，困っていますというお話をよく耳にします。その理由は様々かもしれませんが，大きな理由の一つとしては「文量が多い」「どうやって授業を進めていけばよいかわからない」が挙げられます。結局のところ，従来の訳読式の授業展開になってしまっている場合も少なくないのではないでしょうか。また，学習指導要領を受けて教科書で登場してくる新語の数が大変増えました。語句の導入だけでもかなり大変で，生徒たちは困っている（本当に困っているのは先生の方…！？），とお話される先生方も多くいらっしゃるのではないでしょうか。

しかし，これだけ話題性に富んでおり，長い文章を読みこなしていく練習ができる教材はないと思っています。ですから，生徒の英語力を伸ばしていくうえで，この USE Read の扱い方が重要になってくると考えます。そこで，私が実践している例を２点紹介します。

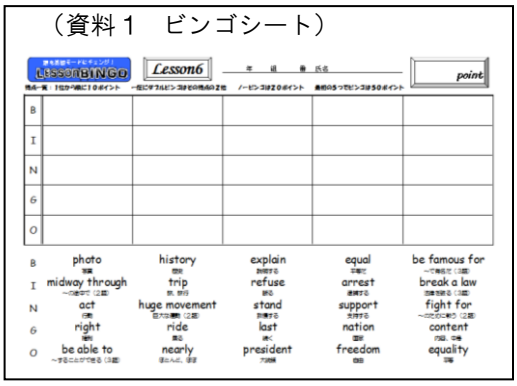
3.　USE Read における語句の導入

語句の導入だけでも時間がかかる…。おっしゃる通りだと思います。教科書で扱われている新語の数はかなりあります。生徒たちに語句の提示をどのように行うかはかなり重要な問題です。

大原則としては語句の導入は「必ず文脈を与えて，その中で理解させる」ということです。単語は文脈の中で役割を発揮します。ですから，オーラルイントロダクションの中で，文脈を与えながら新語を導

入していきます。しかし，あまりにも語句が多すぎて扱いきれない場合もあります。そこで，私は毎時間，帯活動として新語の導入ビンゴを行います。1 枚のビンゴシートで 25 個の単語を扱います。レッスンが切り替わると，また新しい 25 個を扱ったシートを配布します。したがって，そのレッスンを学習している最中はずっと同じビンゴシートを扱うことになります。そうすることで，1 回の授業でかける時間は数分ですが，それを帯活動で行うことで，無理なく新語が定着していき，USE Read に入る際にはある程度の語句を理解できているという状態になります。そして，大切な語句や文脈を与える必要があるものについては，オーラルイントロダクションの際に導入することで，補っていきます。

（資料 1　ビンゴシート）



4.　USE Read を「一課読み」

中学を卒業した生徒たちに聞くと，高校の授業では読む文量が一気に増えて大変だ，もしくは中学校はコミュニカティブに授業をやっていたが，高校では予習前提，訳の確認ばかりでつまらない，英語の力が伸びていく気がしない，という意見も聞こえてきます。しかし，従来の訳読式の授業を脱却するために，高等学校の英語の授業でも最近は，長い文章であっても「一気読み」「一課読み」と，呼び方は様々ですが，本文全体を 1 時間で最後まで扱う方法が徐々に注目され始めています。「じゃあ，今日は左側のページの内容を読み取っていきましょう」のように，ページを分けずに，最後まで通して内容理解をしていく方法です。もちろん最初の 1 時間目ですべての内容を理解するのではなく，数時間かけて授業で扱いながら，しかし授業中は必ず全体を見ながら理解を進めていきます。中学校でもぜひ参考にしたい点です。ある程度のまとまりのある英文をしっかり理解していく活動はどうしても中学校の授業では補いきれない部分です。それを打破してくれるのが USE Read のセクションであり，このページを上手に活用しなければ，生徒たちの長い英文を読み込んでいく体力，また理解力は身についていきません。

その方法の一つとして，段落の並び替え活動が有効であると考えます。本課でも全体を 5 枚の小さなカードに切り分け，生徒たちに配布し，ストーリーの順番に並び替えます。これは，1 時間目の導入時に行う活動として有効です。生徒たちは段落の中にあるキーワードをヒントにしながら，並び替えていきます。そうすることで，必然と全体を見ながら構成を考えていきます。また，段落と段落のつながりやトピックセンテンスの役割などにも注目し始めます。並び替えた後には，段落ごとに小見出しをつけ，全体のストーリーの流れを把握します。

これは最初から上手にできるわけではありません。継続的にくり返し指導し生徒たちは練習していく必要があります。例えば，1 年生の LESSON 8, 2 年生の LESSON 2, LESSON 5, 3 年生の LESSON 3 などの USE Read でも実践できる活動です。

5.　USE Read のその後

よく教科書の内容把握をやっておしまい。ということがあります。生徒たちは一生懸命に内容を把握したのにそれで終わりにしてしまってはもったいないです。教師はとにかく教科書の内容を進めていくことに精一杯で，生徒にとって常に input 中心の授業展開になってしまうことがよくあります。とかくこの USE Read のセクションでは，文量も多い，扱いにくいという“教師の気持ち”が先行してしまい，「生徒にとって，本当に英語の力を伸ばしていくためには何が必要なのだろう」という本来の“教師の想い”がなかなか反映されていないように感じます。

そこで，私は年に数回「プレゼンテーションテスト」を実施しています。教師が授業のオーラルイン

トロダクションで使用したスライド（ピクチャーカード）をそのまま生徒たちが活用し，グループに分かれて，クラス全体に向けて教科書本文の内容を発表するという活動を行います。発表原稿は教科書本文をそのまま使用しても構わないですし，そこに自分なりのアレンジを加えてわかりやすく説明をしても良いこととします。もちろん発表の際には原稿を暗唱することは基本とします。そのため，生徒たちは準備段階から何度も一生懸命音読をします。そして内容を伝えるようなジェスチャーを考え，他の生徒が聞いていてわかりやすくするためにはどうしたらよいかという工夫をします。そのためには内容理解がしっかりしていないといけません。生徒たちは授業の最後にプレゼンテーションテストが待っていると分かっているため，授業中の音読活動や内容理解活動に熱心に取り組みます。最終ゴールを提示することで，生徒たちはそこに向かい日々の授業を大切にします。単に内容理解にとどまる授業では生徒のモチベーションにもつながりません。

本課では，キング牧師のストーリーに合わせて，悲しみ，怒り，苦しみ，そして喜びなど，臨場感あふれるプレゼンテーションを披露してくれます。2年生から継続的に活動することで，生徒たちの姿勢にも変化が見られます。最初はスライド（ピクチャーカード）に向かって話しかけていた生徒が次第にクラス全体にアイコンタクトを配れるようになり，表情も豊かになり，立派なプレゼンテーション能力の育成につながっていきます。この USE Read のセクションでも input, intake, output の流れを大切にしながら，指導していきたいところです。

6.　ICT 機器の活用

USE Read のストーリーは，様々な話題を取り扱っており，生徒たちの興味関心を高める絶好の教材であると考えています。英語を通して世界に目を向ける，英語を通して様々なことを知ることができます。また，最近では ICT 機器の活用が叫ばれており，実際に活用することで生徒たちは授業中に生き生きと活動し，授業をする上での必須教具となりつつあります。パソコンやタブレットをインターネットに接続をして，動画サイトを授業中に見せる先生も増えてきています。実は動画サイトには，*NEW CROWN* の教科書で扱う話題に関する動画がたくさんあります。本課のキング牧師やローザパークスを扱った動画もあり，USE Read を扱う前の導入として，また本文理解をした後で補足的に活用することで，生徒たちは興味を持って動画を見て，本文理解が一層深まっていきます。特に 3 年生の教科書で登場する，Pete Gray について，フィンランドについて，大島希巳江さんが実際に落語をしている様子，佐々木禎子について，Tulou や Ger について，William Kamkwamba についてなど，ほぼすべての内容に関する動画がインターネット上にはあります。

現在は，動画サイトが充実してきて今でこそ活用していますが，以前にはキング牧師に関する英文を扱った最後の授業で，「NHK その時歴史が動いた」で 2008 年 11 月 12 日（水）に放送された「I Have a Dream ～キング牧師のアメリカ市民革命～」を録画した DVD を見せていました。ちょうどオバマ大統領が選出された直後の放送で，黒人差別の問題に立ち向かうキング牧師の様子が放送されていました。教科書のストーリーと映像がほぼ同じ展開で，生徒たちは自分たちが読んだストーリーが本当だったのだと真剣に見ていました。

7.　中学校最後の Mini-project として

本課の最後には Mini-project が用意されています。テーマは「尊敬する人物を紹介する」ということで，中学校最後の Mini-project となります。生徒たちは人物選びから悩みます。生徒たちが人物を選ぶ基準として，「尊敬する人物」というよりは「好きな人物」で選ぶ生徒が多いです。多くの生徒は好きなスポーツ選手，歌手，俳優，テレビタレントなどを取り上げます。しかし，中学校生活最後の Mini-project であり，ぜひともワンランク上を目標に作品を仕上げて欲しいと教師は願うはずです。

そこで教科書に取り上げられている人物を取り上げて活動を進めてみてはどうでしょうか。もちろんすべての生徒が教科書の人物を選ぶ必要はありませんし，モデルや一緒に活動する導入の際に活用することでも良いと思います。1 年生の教科書から通して，様々な分野で活躍している人物，歴史的に

有名な人物なども学習してきました。生徒たちは教科書の学習を通して，すでにその人物の生い立ちや活躍の様子など理解をし終えています。前述した通り，input で終わりにせずに，intake, output へとつなげていく工夫は様々な場面で起こりえます。読んだ英文を writing や speaking へとつなげていきませんか。

（参考文献）「中学英語 ５０点以下の生徒に挑む」瀧沢広人著（明治図書）